

平成 28（2016）年度受託事業

二本松市鷹二区 実態調査報告

大東文化大学 島田ゼミ

(目次)

1. ゼミの目標
2. 鷹二区の状況
3. 活動経過
4. 活動及び調査結果
5. 提案

1. ゼミの目標

島田ゼミは、教員の専門分野である地方自治を勉強するゼミであるが、自治制度を学ぶというより自治の実態を学ぶことを目標としている。もともと「地域の資源を探る」をテーマとした演習であり、実際に現地に赴き地域の方々から話を聞いて、地域を調査する中で地域の魅力を発見する活動を続けてきた。これまでも、福島県飯舘村、新潟県佐渡市、埼玉県ときがわ町などでゼミ活動を行ってきたが、平成 26（2014）年度からは、二本松市東和地区に訪問している。平成 28（2016）年度に、福島県の「大学生の力を活用した集落復興支援事業」を受託したことから、さらに地域を特定して二本松市東和地区内の鷹二区（鷹二集落）において「地域の資源を探る」活動を行うとしたところである。

本ゼミの活動の特徴は、まず、地区においてボランティア活動を行うことである。事前に地域のことを知るための文献調査を行うのは当然であるが、実際に地域において地域住民のためになんらかのボランティアを行うことをモットーとしている。なぜなら、「地域の資源を探る」活動は、時として「よそ者の独りよがり」になりがちであり、地域にとっては「余計なお世話」ともなりかねない。はじめは「地域の人たちが必要としていること」に協力することから、住民の意向に寄り添いながら進めることが大切だと考えるからである。

2. 鷹二区の状況

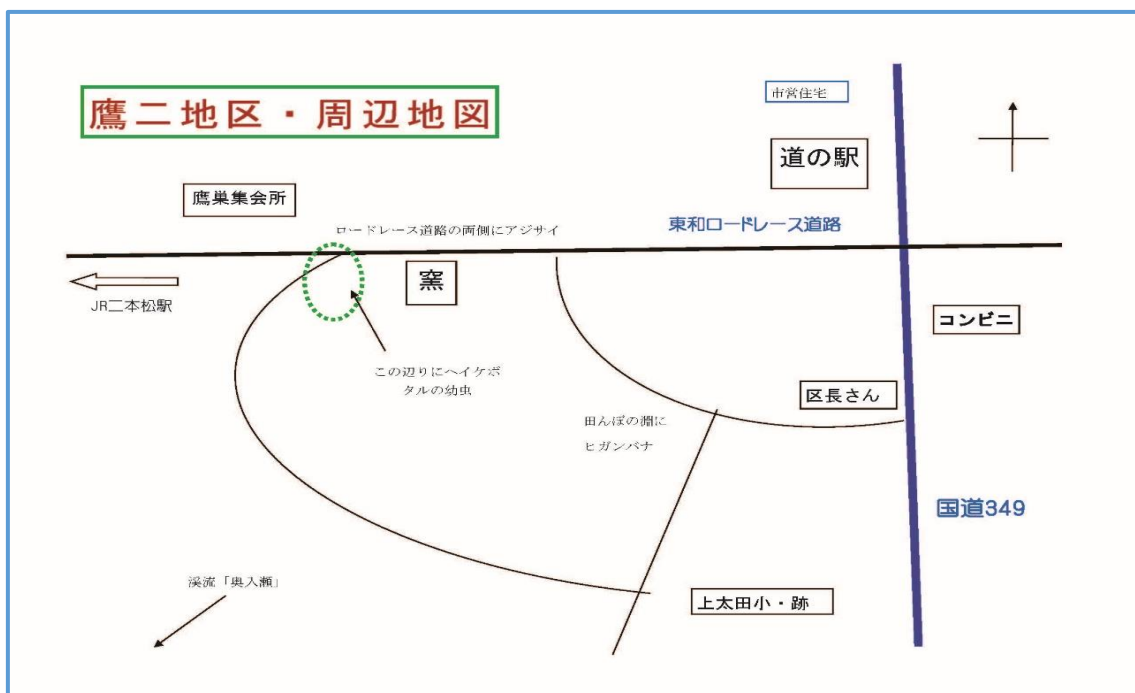
支援事業の対象となった二本松市鷹二区は、二本松市の東に位置し、原発事故による全町避難地域となった浪江町の西にあたる。二本松市の旧東和町は、原発事故の際に浪江町の住民たちが多数避難した場所であり、今でも浪江町立小中学校は東和地区内にある。そうした状況から分かるように、東和地区自体が原発事故による風評被害を受けている地区でもある。

JR 二本松駅からは、車で約 40 分。東京から地区を訪問する場合は、二本松まで各駅停車だと約 4 時間、そこから貸し切りバスやレンタカーで移動することになる。



いずれもマピオンより引用

鷹二区の人口は、現在 75 人。世帯数は 34 世帯だが、このうち二本松市営・芦堰団地の 11 世帯が含まれている。市営団地世帯は、他の地区から移り住んだ方が多く、この地区との繋がりは薄い。団地を除く世帯の職業は、農家 8 戸、自営業 10 戸、会社員等 5 戸で全 23 戸のうち兼業農家は 9 戸。地区の高齢化率は約 50% で、小学生は一人だけという状況にある。



島田ゼミ作成

3. 活動経過

島田ゼミが平成 28 (2016) 年度に行った鷹二区における活動経過は以下のとおりである。
都合 3 回、同地区での活動と調査を行った。

(1) 1 回目 (平成 28 (2016) 年 7 月 2~3 日)

・参加者 2 年生 4 人、3 年生 3 人、教員 計 8 人

・7 月 2 日

12:00 「道の駅・ふくしま東和あぶくま館」着 昼食

13:00~13:50 NPO 理事長の話

14:00~ 三渡窯 視察 その後、町内視察



崩れた窯の様子を確認



当日開催されていた東和ロードレース

16:30~ 鷹巣集落 小泉区長にご挨拶 佐久間さんとともに

18:00 ころ 農家民宿「くまさん」着



宿泊先の農家民宿

・7月3日

9:30～ 道の駅にて：佐久間一さんと打合せ

12:30～ 昼食後 道の駅発

15:00 駅着

(2) 2回目(平成28(2016)年9月7～9日)

・参加者 2年生13人、3年生11人、教員 計25人

・9月7日

11:35 JR二本松駅 集合

バスで、道の駅・ふくしま東和あぶくま館へ移動



道の駅・ふくしま東和あぶくま館

12:00～ 「ゆうきの里とうわ・ふるさとづくり協議会」事務局長さんのお話

三渡窯を主宰するSさんから鷹二区のお話

その後、鷹二区の農家の皆さんのお手伝い



道の駅における打合せ



農作業の手伝い

16:00～ 鷹二区の皆さんと交流

—区長さんのお話のあと、住民の皆さんとバーベキュー



ブルーシートのテントでのバーベキュー

泊 バスで、木幡山・隠津島神社参宿所へ

・9月8日

6:00～ 起床後 参宿所周辺の掃除



木幡山・隠津島神社参宿所

9:00～17:00 バスで三渡窯に移動。修復のためのレンガ撤去作業、



三渡窯のレンガ撤去作業

泊 農家民宿

・9月9日

9:00~11:30 農家民宿場所から三渡窯へ 窯修復のためのレンガ撤去作業
並行して、女性陣を中心に 郷土料理（だんご汁）作り教室



撤去後の窯にて



撤去された煉瓦の山



だんご汁交流会

12:00~ 鷹巣集会所にて、だんご汁を頂きながら、婦人会の皆さんと交流

13:00 道の駅にて反省会

15:00 バスで JR 二本松駅へ 解散

(3) 3回目 (平成28(2016)年11月3~4日)

・参加者 2年生3人、3年生3人、教員 計7人

・11月3日

11:35 JR 二本松駅集合

12:30 道の駅

14:00 鷹二区集落 徒歩による視察「鷹二区の歴史、景観を観て知る」



徒歩視察前の打ち合わせ



塩の道の昔の標識



西海道の白髭宿



奥入瀬（馬洗川溪谷）

16：00～18：00 鷹二区の皆さんと相談会



地域の皆さんとの相談会

19：00 農家民宿泊

・11月4日

9：00～10：30 二本松市役所ヒアリング（東和支所にて）



市役所ヒアリング

11：00～12：00 区長さん宅で懇談

14：00 道の駅発

15：00 二本松駅解散

4. 活動及び調査結果

2016年度の鷹二区における島田ゼミの主な活動は、東日本大震災で崩壊した登り窯の修復と、住民の皆さんとの話し合い、そして地域の状況把握のための調査活動の三つであった。

鷹二区の登り窯は、三渡窯（みわたりよう）と呼ばれ、地域住民であるSさんが主宰する窯である。東日本大震災の際、二本松市は震度6強の地震に襲われ、4連の登り窯であったこの窯は崩れ去ってしまう。福島県内では数少ない登り窯であったが復興事業の対象にはならず、原発事故のため燃料となる木材を地域から調達することも難しくなってしまったこともあって放置されていた。

窯も自営業の一つ、という考え方に立てば、修復も自己責任ということになるのかもしれない。かつては、地震で倒壊した自宅の再建も自己責任と考えられていた。しかし、阪神淡路大震災が一つの契機となって、公的資金による援助が行われるようになった。同じように、自営業についても他からの支援がなければ、消え去ってしまうだろう。特に、焼き物のように様々な利用法（食器、花瓶、飾り物等）があるものは、地域の産業への影響も大きい（日常生活、飲食店などの利用）。島田ゼミは、平成26（2014）年に二本松市での活動を始めた時も、窯の修復に取り組んだが、崩れた煉瓦があまりに多く、その撤去すら終わることができなかった。平成28（2016）年度の活動では、数千という崩れた煉瓦を取り去って更地にすることを目指そうと考えた。

結果として9月の二日間、20数名が力を合わせ懸命に働いた結果、どうにか煉瓦を取り除くことに成功した。一日目は雨に見舞われ、二日目は猛暑に見舞われながらの作業であったが、初期の目標は達成することができた。

二つ目の地域の皆さんとの話し合いについては、数回にわたった。7月の調査では、代表7名が地域を訪問し、鷹二区の区長さんとSさんから地域の様子を伺った。この話を基に9月のゼミ合宿のとき、ゼミ生全員による同地区における活動を行うことにした。9月には、まず数人ずつ分かれて地区の皆さんが行っている農業をお手伝いする活動を行った。その後、バーベキュー。小雨降る中、クレーン車によるテント張が行われ、学生24名と住民の皆さん10数名という大規模なものとなった。最終日には婦人会の皆さんから郷土料理である「だご汁（すいとん汁）」をごちそうになった。11月には、今度は地域の宝について、住民の皆さんからそれぞれ大切にされているもの、自慢できるものを聞くことができた。また、二本松市役所から行政の立場からの話を聞くこともできた。人口減と少子化については、市としても十二分に認識していた。ただ、広大な市域（二本松市は、2005年に東和町、岩代町、安達町と合併した）の中で、旧町の、しかも個別の集落（行政区）の支援となると困難な面があるようであった。

三つ目の地域の状況把握のための調査活動については、11月に旧町役場職員であった住民の方に、東和町教育委員会作成『東和町の文化財』（平成15年3月作成）を参考文献に、

地区内を案内していただいた。道の駅ふくしま東和あぶくま館を出発点として、かつて塩の道と呼ばれ、参勤交代にも使われたという奥州西海道を歩きながら、かつての生活ぶりなどを聞いていった。塩の道はかつての面影とは遠く、石碑は木の陰に隠れ、道は崩れかけブルーシートで覆われたところもあった。廃校となった小学校へと上がる道は竹で塞がれたままである。しかし、かつての宿場町（白髭宿）や奥入瀬を彷彿とさせる河原（馬洗川溪谷）もあった。

5. 提案

地区は、少子化と人口減少、さらに原発事故による風評被害という厳しい状況におかれている。片道5時間以上離れている私たちができることは限られている。それでもできることはある。

一つは、柿の利用法である。かつて柿はどの家にもあって、ほとんどが食されていたが、いまでは大半が放置され、地元の皆さんが「鳥の餌」となっているというほどである。中には、熟して道路に転がっているものも見かけた。柿の実を使って何か新しいレシピを考えられないか。学生たちと地域の婦人会など住民の皆さんと一緒に考えることを提案したい。地域の練達の皆さんと都会の若者のコラボで何か生まれることに期待したい。

もう一つは、竹の利用である。地域に放置されている竹林があった。これを使って何かできないか。竹の利用法は多い。加工してザルなどの道具を作る地域もあるし、近年は竹炭も消臭剤などとして人気がある。単に切ってランタンとして使うこともできる。地域の中に伝統の技術があれば、その復活につながるかもしれない。

さらに登り窯の復活である。焼き物を焼くことを考えるなら、これまでの作業はほんの前段に過ぎない。窯を作り直し、焼き物ができるようになってこそ、復興である。窯の建設には、ときに多くの人力を必要とするという。事業をぜひとも継続したい。

平成29(2017)年度は、このような活動に行っていけたら、と考えている。